

断水の怖さから学んだこと

ある日の朝、私は衝撃的なニュースを見た。それは、和歌山県和歌山市内を流れる紀の川に架かる水道橋が崩落したというニュースだ。この水道橋は和歌山市の紀の川北側に送水するため水道管をわたす唯一の橋だそうだった。私がこのニュースを見て衝撃的になった理由は、私の祖母が少し離れた所に住んでいるからだ。幸い祖母が住んでいる町には被害はなかったが、少し離れた和歌山市では完全に水がとまっていた。水がとまっただけでも生活は完全に変わっていく。どんなに大変なことだろうと私は考えた。私は、生まれてから一度も「断水」を経験したことはない。津波や大きな地震もきたことはないし、少しだけ大きな地震がきたときはあつたけれど、水はとまってはいない。いつもあたり前のように蛇口をひねると水がでるし、お風呂も簡単にわ

奈良市立富雄第三中学校 二年

片山 紗妃

かすこともできる。花の水やりも、トイレも洗濯もなんだって水が必要だ。いつも何気なく使っている水だけれど、もし、私の地域が断水してしまったらどうだろう。もしかすると、飲み水もなくなってしまうのだろうか。今、家にたまたまある、お茶、水などを家族全員でシェアしていかないといけないのだろうか。もし大家族だとすると、数本しかない飲み水をどうやって分配していくのだろうか。その飲み水数本で何日も、もっていきけるのだろうか。いろいろ考えや不安が出てくる。断水という怖い経験を体験したことがないからこそ、考えていく必要があると思う。私は、母に、「水を大切にしないさい。」「水を無駄遣いしてはいけない。」「水の出っぱなしはやめなさい。」とよく注意をされていた。出っぱなしで生活が完全に変わるわけではない。

だけれど、「断水」では完全に生活は変わる。その癖を直していくだけで、その分の水がもしかしたら、断水の地域に届くかもしれない。毎日、その断水のニュースが流れているので、どんどん新しい情報が更新されていく。それを見ていく中で、住民の声がよく流れてくる。どの住民も、「節水」などの声をあげている。「非常時に備えるべき。」という声も出ている。配水池から離れていたり、高台にあったりする家では水が届きにくいそうだ。こういう場所こそ日頃から考えていく必要があると思う。

ニュースを見ていく中で、住民が配水池まで水をくみに行く様子が多く取り上げられている。だいたいの住民が大きなボトルをもってきている。でも住民は少し不安そうな顔をしていた。限りある水で生活していくのは少し不安だなと私も共感ができた。でも、数日たった後、無事に家庭に水が届くようになった。どの住民も安心した顔をたやさなかった。私は、その和歌山市の断水のニュースを見ていく中で、多くの断水に関することを学べたと思う。「節水」のことや、「断水の怖さ」

などだ。「限りある水」の中での生活のこと。もそうだ。いつ、どこで断水がおこるのかわからないからこそ備えていくべきだと思った。今は、限りある水の中での生活ではないけれど、「断水」についてもっと知っていく必要があると思う。このニュースで学んだたくさんの方のことを日々の生活でも生かせるよう、常に考えて行動していきたい。